

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局(43) 国際公開日
2004年3月18日 (18.03.2004)

PCT

(10) 国際公開番号
WO 2004/021962 A1

(51) 国際特許分類7: A61H 7/00, A61F 9/00

(81) 指定国(国内): AU, CA, CN, DE, GB, KR, RU, SE, SG, US.

(21) 国際出願番号: PCT/JP2003/008959

(22) 国際出願日: 2003年7月15日 (15.07.2003)

(84) 指定国(広域): ヨーロッパ特許(AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HU, IE, IT, LU, MC, NL, PT, RO, SE, SI, SK, TR).

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

添付公開書類:

(30) 優先権データ:

特願2002-249771 2002年7月15日 (15.07.2002) JP
特願2003-305418 2003年7月15日 (15.07.2003) JP

— 国際調査報告書

— 請求の範囲の補正の期限前の公開であり、補正書受領の際には再公開される。

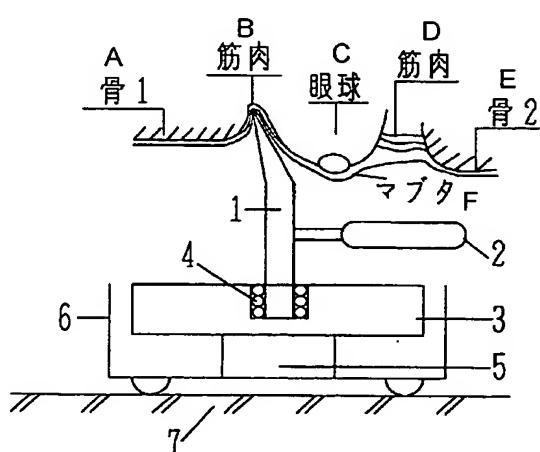
(71) 出願人および

(72) 発明者: 照井 聖一 (TERUI, Shoichi) [JP/JP]; 〒024-0082
岩手県 北上市 町分1の363の31 Iwate (JP).

2文字コード及び他の略語については、定期発行される各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。

(54) Title: EYESIGHT AND HAIR RECOVERY DEVICE, AND MEDICAL TREATING METHOD

(54) 発明の名称: 視力、頭髪回復装置と治療方法



A...BONE 1 D...MUSCLE
B...MUSCLE E...BONE 2
C...EYEBALL F...EYELID

(57) Abstract: It is intended to improve eyesight or to obtain the effect of preventing hair from turning gray by applying a revolving force, not just a pressure or vibration, to the deep portion of the muscle around the eyeball and the back of the bone thereof, a muscle portion annexed to the irregular portion of the bone around the eyeball, the temple portion, the back of the neck, the muscle for occluding the upper and lower teeth, the scalp or the like, and massaging such portion. That is, the massaging implement of the invention is used such that with one side fixed, a revolving transmission element (1) is pressed against the region to be medically treated.



(57) 要約:

本発明は、眼球周囲の筋肉の奥深い部分と、骨の裏側、眼球周囲の骨の凹凸部分に付随する筋肉部分、こめかみ部分、首後部、上下歯のかみ合わせ筋肉、頭皮その他に、単なる押圧や振動ではなく、旋回力を与え、揉みほぐすことで、視力の向上や白髪防止の効果を得ることができるものである。

すなわち、本発明のマッサージ器具は、一方を固定し、旋回する伝達子（1）を治療する部位に押圧して使用するものである。

明細書

視力・頭髪回復装置と治療方法

技術分野

本発明は旋回又は揺動又は振動等で駆動する伝達子を身体の部位に押し当てる、マッサージ効果による身体の働きを活性化するものと方法に関する。

背景技術

従来は星を眺めたり、指で眼窩の回りを押したり、超音波を眼窩の回りに当てたり、振動するイボイボ(突起)を眼鏡に付属したりしていた。しかしいずれも、眼窩の回りの筋肉のコリや、コリによる視神経の伝達障害を効果的に除去するに至っていない。

治療を、皮膚の上から、振動を与えるのが主体となっている。

発明の開示

伝達子1の型状を様々に加工する事により、眼窩周囲の筋肉の奥深い部分と骨1.2の裏側、眼窩周囲の骨の凸凹部分に付随する筋肉部分、こめかみ部分、首後部、上下歯のかみ合わせ筋肉、頭皮その他に、単なる押圧や振動ではなく、旋回力を与え揉みほぐし、マッサージ効果を飛躍的に高めた、革新的構造と効果を持たらす技術である。

旋回力を与えて揉みほぐすと、眼窩周囲の深い部分の固化した筋肉や固化による視神経の伝達障害や分泌液の拘束等その他の障害が除去されて、その波及効果を著しく高める事が可能である。

旋回の半径は 0.1 mm ~ 3 mm 程度、 旋回数は毎分 50 ~ 3800 回

程度が大きな効果を得る事が可能である。

又 こめかみと上下歯を動かす筋肉に押圧して旋回力を与えて固化した筋肉を揉みほぐすと、夫々前者は眼球の動きを円滑にし視野を広げる事が可能、後者はかみ合せ力を強化する事ができる。

又 首後部に使用すると、視力向上の支援効果を得る事が可能である。

一方回転体の反動力で駆動する伝達子で同様の効果を得ようとすると、

把握する手や、固定すべき部分に振動が伝わり、騒音が大きめ

となり、使用上振動力が損失となり逃げている事となり効果が減少する。

旋回する伝達子 1 は、一方を完全に固定して使用すると、伝達子 1 は強い、旋回伝達効果を患部に与える事が可能である。

同様に 頭皮にも血流効果を促進し、頭髪の黒化、回復に効果がある。

請求項 1 は図 1 の例で説明すると一方が固定されている大地、床、壁、その他であり、静止している。

又、手で持って固定する事もある。伝達子 1 はハンドルツマミ 2 で回転を止め、図 3 の如く旋回している。眼部以外にも押圧してマッサージ効果を得る。

請求項 2 では 図 1 の如く旋回する伝達子 1 を、眼部周辺に押圧しているがこの場所マブタ表面に押圧すると疲れがとれる程度であり、図 1 の如く深く押圧すると、視力の向上効果を著しく高める事が可能であり、この外に乱視、斜視、近視、そして血流不良に起因する各種の目の障害に広範な効果を及ぼす事が可能となる。先端部は眼球と骨 1.2 の間に深く作用する為細い。

請求項 3.4.5 は固化している各部の筋肉を、上述の如く揉みほぐして各部の運動を円滑化し、強化する。押圧する伝達子は丈夫な材料で構成する。

眼球運動を円滑化するには図 8 のこめかみ付近の筋肉 13 を旋回する伝達子 1 に押圧して、又 上下歯のかみ合せ力を強化するにはアゴ付近の筋肉 14 を押圧する。

一方、旋回する伝達子 1 を首後部の固化した筋肉 12 に押圧し、揉みほぐす事により、この部分の筋肉が正常に作用する事による視力の向上を支援するものである。

請求項 6 は、旋回する伝達子 1 使用するので 図 11 に関連する。

請求項 1.2.3.4.5.11.12 に共通して、一方を固定するの意味は、例えば、図 11 において、携帯電話又は同様のものを手で持つて固定する事を含む。又 別に 例えば床、壁、マット等の上に置く事を含む。

伝達子 1 を旋回すると、固化した筋肉に伝達子 1 が有効に働き、極めて短時間に揉みほぐす事が可能である。

請求項 7 は旋回する伝達子 1 又は回転体の反動力で駆動する伝達子 1 を携帯電話と一体化する事により、携帯の利便性を高めたものである。

回転体の反動力で駆動する伝達子 1 を有する器具の駆動原理は図 10 の通りであり、回転体 16 はモーター 17 等により回転すると偏心錘 15 の遠心力により平衡を失ない、振動を開始し、伝達子 1 は振動する事を利用している。図 10 図 11 に関連する。

請求項 8 は 図 9 に関連する。治療回復後、眼鏡の度数を低くして、治療前の眼鏡装着視力と同程度の眼鏡装着視力を維持する。この間眼の筋肉の緊張が和らぎ水晶体のピント合わせ能力が向上し この結果視力が向上する。

この繰り返しを行いながら、所定の視力まで上げる事が可能となる方法に関する。

請求項 9 は図 10 に関連する。モーター 17 で回転する、回転体 16 の中央を外して、偏心錘 15 を取り付けると、遠心力が働き、平衡を失ない、振動を開始する。伝達子 1 はモーター 17 と一体に構成されているので連動して振動する。

請求項 10 は一方を固定しとしているのは手で持つたり、何らかの方法で所持する方法全般を含んでいる。 例えば ケース 9 を手で持つて旋回する伝達子 1 を患部にあてた場合、振動が手に伝わり

充分な治療を行ないにくい。この為安定錘 8 を取り付けると手振が止み、ほぼ完全に振動を抑える事が出来る。これは特に上下歯を動かす筋肉やこめかみ等の固い筋肉をマッサージする場合、大なる効果を得る事が出来る。又 頭皮マッサージにも効果が大きく眼部では不可欠なものである。

手振れがしなくなる分患部に対し、効果を及ぼす事が可能である。
携帯に利便性がある。

請求項 11 は、図 2 の様なマッサージ器具を使用する場合、伝達子 1 で頭髪をかきわけて頭皮をマッサージする。支持部を手で持って前後、左右に向きを変える事が出来るで、効果大である。図 2 に関連する。伝達子 1 は旋回している。

請求項 12 は、頭皮のマッサージ器具に関するものである。
図 7 に関連する。

請求項 13 は、図 4 の様なマッサージ器具を首後部マッサージに使う場合伝達子 1 を複数の本数を配置し、その伝達子 1 の両側を高く、中央付近を低くして、首の形に合わせ押圧して、伝達子 1 を旋回し、首後部をマッサージする。短時間で効率良くマッサージできる。首の他に脚、腕、腰に合う様、伝達子 1 の形状を調整すれば、これらの部位の治療に使う事が可能となる。

請求項 14 は、首後部に合う様、伝達子 1 の高さを変えて、この伝達子 1 を旋回する事により、首後部をマッサージする。姿勢を横にすると、首の周辺全体をマッサージ出来る。横たわって使用する。但し、握り部 10 で持ち上げ支持する使い方もある。図 4.5.6.7. に関連する。その他 こめかみ周辺、上下歯を動かす筋肉、頭皮、眼部も治療出来る。多用途のマッサージ器具に関するものである。旋回力発生部分を共有し、治療する部位に応じた伝達子 1 を装着可能としている事を特徴としている。

図面の簡単な説明

- 第 1 図 旋回する伝達子による患部（眼部）治療例
- 第 2 図 旋回する伝達子による手で持つ事が可能なマッサージ器具例
- 第 3 図 伝達子の旋回運動の様子
- 第 4 図 首部及び首 及び脚等治療するマッサージ器具例（斜視図）
- 第 5 図 こめかみ,上下歯を動かす筋肉を治療するマッサージ器具例(斜視図)
- 第 6 図 眼部を治療する伝達子を装着したマッサージ器具例(斜視図)
- 第 7 図 頭皮のマッサージ器具例（斜視図）
- 第 8 図 ツボの配置の様子
- 第 9 図 治療実績例
- 第 10 図 回転体の反動力で駆動する伝達子の関連（斜視図）
- 第 11 図 携帯電話に伝達子を組合わせた例（側面図）
- 第 12 図 安全具付のマッサージ器による眼部治療例（側面側）

符号の説明

1. 伝達子	13. こめかみ
2. ハンドルツマミ	14. 上下歯を動かす筋肉
3. 旋回板	15. 錘
4. ベアリング	16. 回転体
5. 旋回発生部	17. モーター
6. ケース	18. 携帯電話
7. 床	19. 骨下端宛部
8. 安定錘	20. 安全具
9. ケース	
10. 握り部	
11. 安全ガード	
12. 首後部	

発明を実施するための最適の形態

伝達子 1 は回転を伴わない旋回を行なうのが使い心地が良く、最も安全性にすぐれている。重ねて表現すると伝達子 1 は回転せず、円の軌跡を描いて旋回している。

図 12 の如く、伝達子 1 が不意に眼球の奥深く入るのを防ぐ為 骨 1 に骨下端宛部 19 を、又眼球保護用に安全具 20 を付属した眼部マッサージ器具もある。

図 9 は 6 週間で裸眼視力 0.05 ~ 0.6 に改善した実績を示す。治療に使用した器具は 図 4.5.6. に示すものを併用して、首後部、こめかみ、上下歯を動かす筋肉、 眼部等をマッサージしている。眼部だけ マッサージしても効果を得る事が出来る。

伝達子 1 の材質、形状等は治療する部位に合わせて選べば良く無限にある為、具体的な図面等は省く。

請求項 1.2.3.4.5.10.11. において「一方を固定し」との意味は、手で持つ、床その他の造営材に固定する事、構造物全般に取付し、固定する事を云う。

図 6 において伝達子 1 は旋回して使用するが、この場合安全ガードをマッサージ器具に固定し、ガードの丸穴を通してこの丸穴内で旋回する構造とする事もある。この安全ガードが旋回半径が過大となるのを防止する。

安全ガード 11 は 脱着可能としている。

本発明の効果をまとめて、記載すると、実に多大である事がわかる。

産業上の利用可能性

(1) 目に関する効果

近視、斜視、弱視、白内障、視野の狭小、視覚の追従不良、まぶたのゴロゴロ感やしづい感、等に効き目あり、まぶたの不快感。

(2) 頭髪に関する効果 頭髪の黒化

(3) 生活面での効果

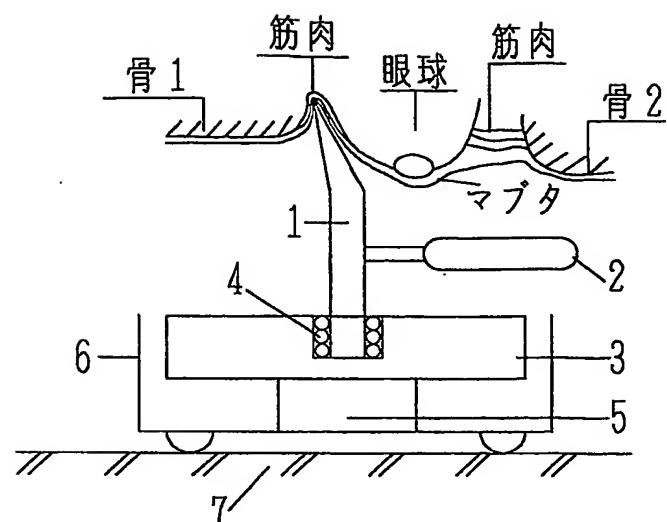
長時間のドライブで眠くならない。目覚し効果がある。仕事の能率が上る
文字が上手に書ける。交通の信号や文字が早期に読み取れる等の為 車の運転に
安心感が出てくる。パソコン操作が気楽になる。パイロットの眠気覚しに、
人の細かい表情が見えて会話が出来て楽しくなった。頭が良くなつた。
等 実に広範な効果がある。

請求の範囲

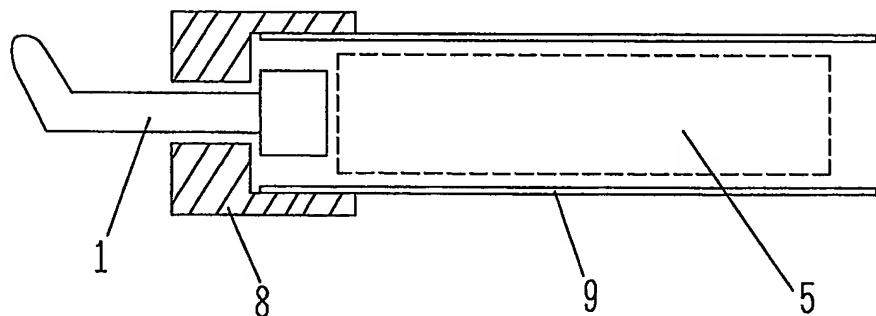
1. 一方を固定し、旋回する伝達子 1 を治療する部位に押圧して 使用するマッサージ器具.
2. 一方を固定し、旋回する伝達子 1 を眼部周辺に押圧して 使用する請求項 1 記載のマッサージ器具
3. 一方を固定し、旋回する伝達子 1 をこめかみ周辺に押圧して使用する請求項 1 記載のマッサージ器具
4. 一方を固定し、旋回する伝達子 1 を、上歯と下歯のかみ合せ筋肉に押圧して使用する請求項 1 記載のマッサージ器具
5. 一方を固定し、旋回する伝達子 1 を、首後部に押圧して使用する請求項 1 記載のマッサージ器具
6. 携帯電話に旋回する伝達子 1 を駆動する動力装置を有し、伝達子 1 を治療する部位に押圧して使用するマッサージ器具
7. 携帯電話に回転体の反動力で駆動する伝達子 1 を有し、伝達子 1 を治療する部位に押圧して 使用するマッサージ器具
8. 請求項 1 又は 2 と、3 又は 4 又は 5 又は 6 又は 7 の内、一つ又は複数を組み合わせて、視力を向上した後、度数の低い眼鏡に取り替えて眼鏡装着視力を回復以前の視力に保持する視力回復方法
9. 回転体の反動力で駆動する遺伝子 1 を治療する部位に押圧して 使用するマッサージ器具
10. 一方を固定し 安定錘 8 を有し、旋回する伝達子 1 を治療する部位に押圧して 使用する請求項 1 又は 6 記載のマッサージ器具

11. 一方を固定し、旋回する伝達子 1 を頭皮に押圧して頭皮をマッサージする請求項 1 記載のマッサージ器具
12. 伝達子 1 を複数配置し、その伝達子 1 の両側を長く、中央部を短く構成し、握り部 10 有し、伝達子 1 を頭皮に押圧して旋回し使用する 請求項 1 記載のマッサージ器具
13. 伝達子 1 を複数配置し、その伝達子 1 の両側を高く、中央部を低く構成し、伝達子 1 を旋回し、首後部に押圧してマッサージする請求項 1 記載のマッサージ器具
14. 複数の伝達子 1 有し、頭の上部に合う様 伝達子 1 の長さを変えて構成し、一方は首後部に合う様 伝達子 1 の長さを、変えて構成し、別に こめかみ周辺に押圧する伝達子 1、上下歯を動かす筋肉に押圧する伝達子 1、眼部に押圧する伝達子 1 を装着し、これらの全部 又は 一部の部位を マッサージ可能とする伝達子 1 を旋回する旋回発生部 5 に連動し、握り部 10 を有する 請求項 1 記載のマッサージ器具

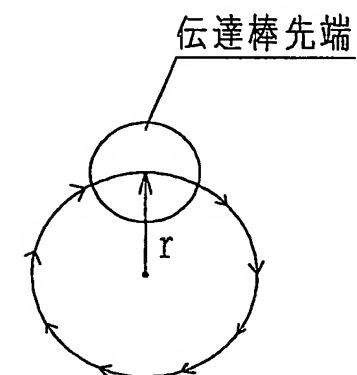
第 1 図



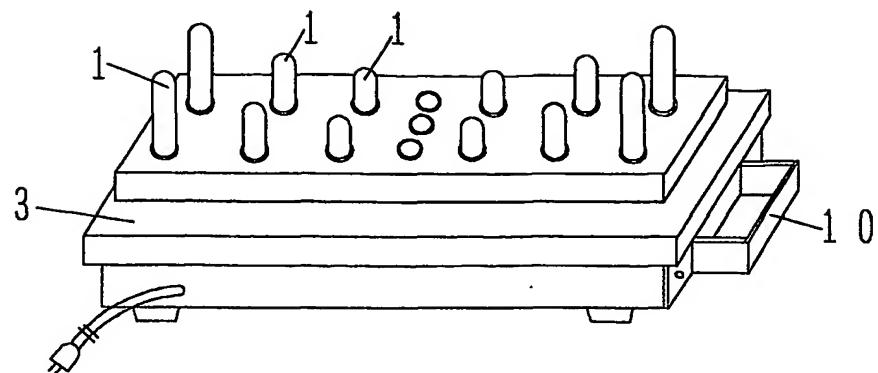
第 2 図



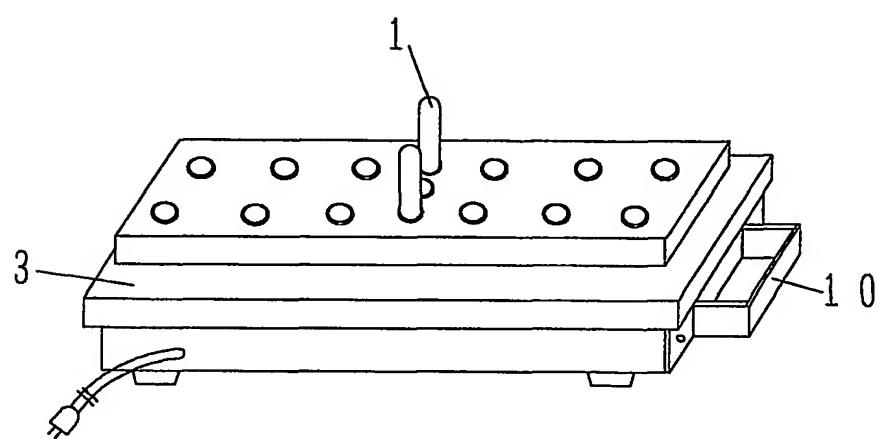
第 3 図



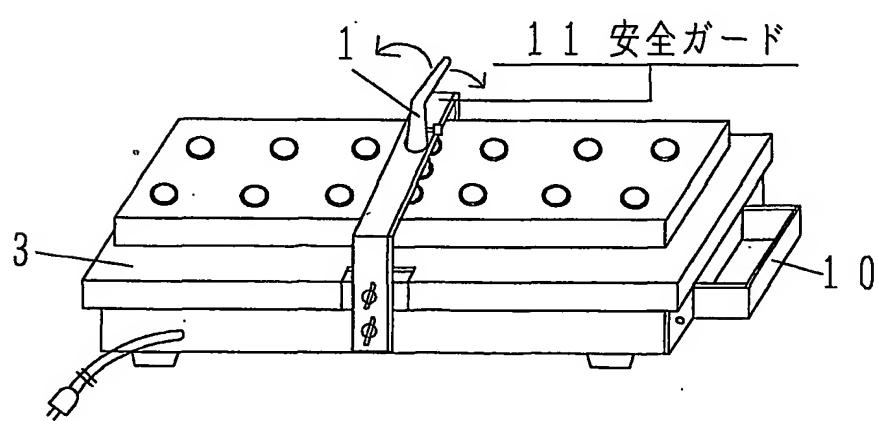
第 4 図



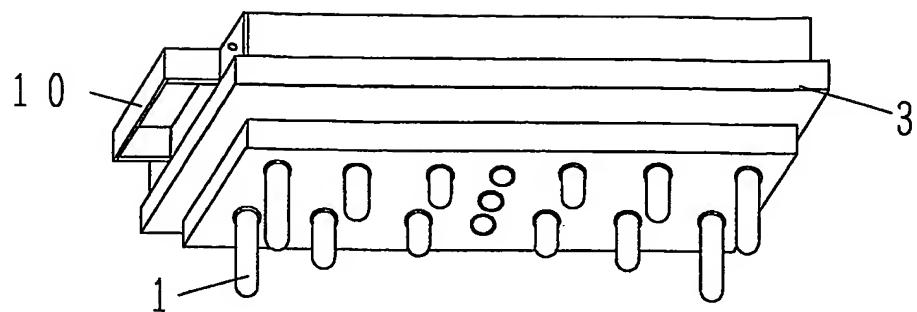
第 5 図



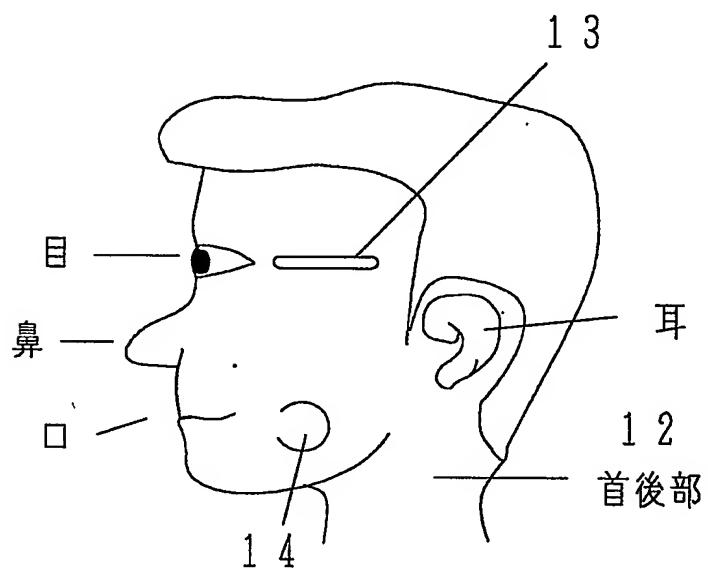
第 6 図



第 7 図



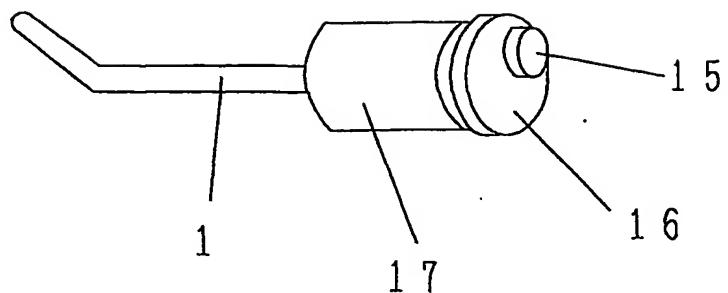
第 8 図



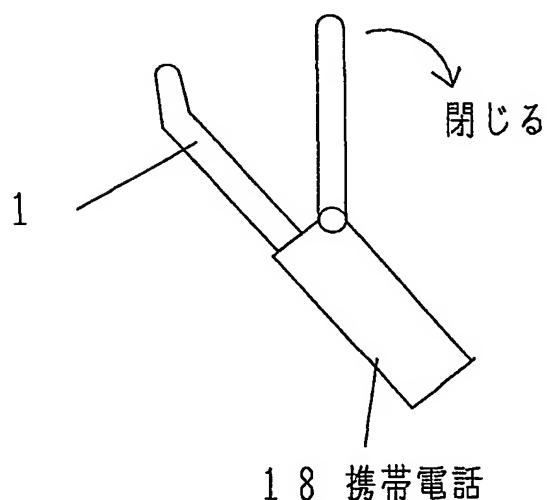
第 9 図

(低度数に取替) 眼鏡取替	(眼鏡装着) 視 力	(眼鏡装着) 治療後視力	裸眼視力
治療前	0.9	—	0.05
第1回	0.9	1.2	0.1
第2回	0.8	1.1	0.2
第3回	0.9	1.1	0.3
第4回	0.9	1.0	0.4
第5回	0.8	1.1	0.5
第6回	0.9	1.1	0.6

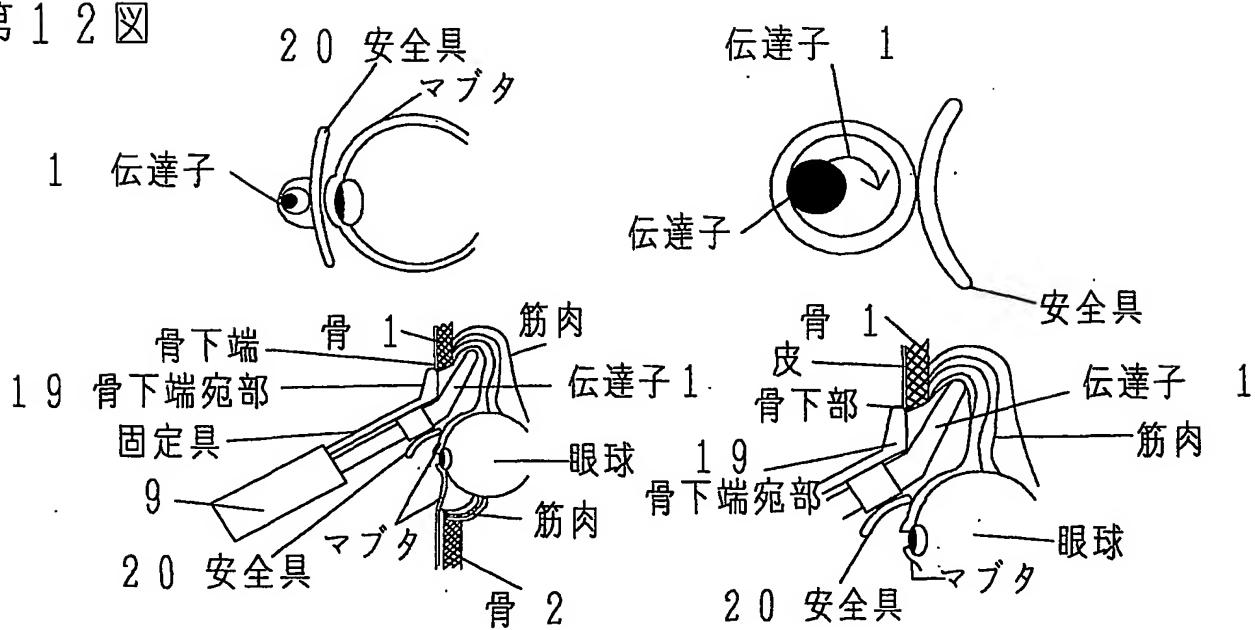
第10図



第11図



第12図



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP03/08959

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER
Int.Cl' A61H7/00, A61F9/00

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl' A61H7/00, 23/02, 39/04, A61F9/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched
Jitsuyo Shinan Koho 1922-1996 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2003
Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2003 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2003

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X Y	WO 95/34268 A1 (Daito Denki Kogyo Kabushiki Kaisha), 21 December, 1995 (21.12.95), Full text; all drawings (Family: none)	1,5,9-10 3-4,13-14
X	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 64746/1975 (Laid-open No. 143389/1976) (Atsumi KATAHARADA), 18 November, 1976 (18.11.76), Full text; all drawings (Family: none)	1,2

 Further documents are listed in the continuation of Box C. See patent family annex.

* Special categories of cited documents: "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance "E" earlier document but published on or after the international filing date "L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified) "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means "P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed	"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention "X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone "Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art "&" document member of the same patent family
---	---

Date of the actual completion of the international search
22 December, 2003 (22.12.03)Date of mailing of the international search report
20 January, 2004 (20.01.04)Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP03/08959

C(Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP 49-55190 A (Fuchitake INADA), 29 May, 1974 (29.05.74), Full text; all drawings (Family: none)	1, 5
X	JP 2000-51303 A (Atomu Kogyo Kabushiki Kaisha), 22 February, 2000 (22.02.00), Full text; all drawings (Family: none)	1, 5
X	JP 2002-84344 A (Sony Corp.), 22 March, 2002 (22.03.02), Full text; all drawings (Family: none)	6-7
X	JP 3-10757 Y2 (Isamu KATO), 18 March, 1991 (18.03.91), Full text; all drawings (Family: none)	9
X	JP 1-44334 B2 (Matsushita Electric Works, Ltd.), 27 September, 1989 (27.09.89), Full text; all drawings (Family: none)	11
Y	JP 10-216186 A (Matsushita Electric Works, Ltd.), 18 August, 1998 (18.08.98), Par. No. [0012]; Fig. 5 (Family: none)	12
Y	JP 3032328 U (CHIN Ryukin), 17 December, 1996 (17.12.96), Page 6, line 12 to page 7, line 7; Figs. 4 to 8 (Family: none)	3, 14
Y	JP 2000-79015 A (Hiroshi HOCHI), 21 March, 2000 (21.03.00), Par. No. [0041]; Figs. 10 to 11 (Family: none)	12
Y	JP 59-209342 A (Morten Corp.), 27 November, 1984 (27.11.84), Full text; Figs. 1, 4 (Family: none)	13
A	JP 5-68149 U (Mitsuo HARA), 10 September, 1993 (10.09.93), Full text; all drawings (Family: none)	6-7

INTERNATIONAL SEARCH REPORTInternational application No.
PCT/JP03/08959**Box I Observations where certain claims were found unsearchable (Continuation of item 2 of first sheet)**

This international search report has not been established in respect of certain claims under Article 17(2)(a) for the following reasons:

1. Claims Nos.: 8

because they relate to subject matter not required to be searched by this Authority, namely:

Claim 8 defines an eyesight recovering method, corresponding to a human body treating method by therapy; thus, it relates to a subject matter not requiring the international searching authority to search, under the provisions of (continued to extra sheet)

2. Claims Nos.:

because they relate to parts of the international application that do not comply with the prescribed requirements to such an extent that no meaningful international search can be carried out, specifically:

3. Claims Nos.: 8

because they are dependent claims and are not drafted in accordance with the second and third sentences of Rule 6.4(a).

Box II Observations where unity of invention is lacking (Continuation of item 3 of first sheet)

This International Searching Authority found multiple inventions in this international application, as follows:

1. As all required additional search fees were timely paid by the applicant, this international search report covers all searchable claims.

2. As all searchable claims could be searched without effort justifying an additional fee, this Authority did not invite payment of any additional fee.

3. As only some of the required additional search fees were timely paid by the applicant, this international search report covers only those claims for which fees were paid, specifically claims Nos.:

4. No required additional search fees were timely paid by the applicant. Consequently, this international search report is restricted to the invention first mentioned in the claims; it is covered by claims Nos.:

Remark on Protest The additional search fees were accompanied by the applicant's protest.
 No protest accompanied the payment of additional search fees.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP03/08959

Continuation of Box No.I-1 of continuation of first sheet(1)

PCT, Art. 17, (2)(a)(i) and PCT Rule 39.1(iv).

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl' A61H7/00, A61F9/00

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl' A61H7/00, 23/02, 39/04, A61F9/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2003年
日本国実用新案登録公報	1996-2003年
日本国登録実用新案公報	1994-2003年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
X Y	WO 95/34268 A1 (大東電機工業株式会社) 1995.12.21 全文, 全図 (ファミリーなし)	1, 5, 9-10 3-4, 13-14
X	日本国実用新案登録出願50-64746号 (日本国実用新案登録出願公開51-143389号) の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム (片原田 篤美) 1976.11.18 全文, 全図 (ファミリーなし)	1, 2

 C欄の続きにも文献が列挙されている。 パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
 「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)
 「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
 「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日 22.12.03	国際調査報告の発送日 20.1.2004
国際調査機関の名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目 4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 安井 寿儀 3 E 9530 電話番号 03-3581-1101 内線 3344

C (続き) 関連すると認められる文献		関連する 請求の範囲の番号
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	
X	JP 49-55190 A (稻田 二千武) 1974. 05. 29 全文, 全図 (ファミリーなし)	1, 5
X	JP 2000-51303 A (アトム工業株式会社) 2000. 02. 22 全文, 全図 (ファミリーなし)	1, 5
X	JP 2002-84344 A (ソニー株式会社) 2002. 03. 22 全文, 全図 (ファミリーなし)	6-7
X	JP 3-10757 Y2 (加藤 勇) 1991. 03. 18 全文, 全図 (ファミリーなし)	9
X	JP 1-44334 B2 (松下電工株式会社) 1989. 09. 27 全文, 全図	11
Y	(ファミリーなし)	12
Y	JP 10-216186 A (松下電工株式会社) 1998. 08. 18 段落【0012】 , 図5 (ファミリーなし)	3
Y	JP 3032328 U (陳 柳金) 1996. 12. 17 第6頁第12行-第7頁第7行, 図4-8 (ファミリーなし)	4, 14
Y	JP 2000-79015 A (保知 宏) 2000. 03. 21 段落【0041】 , 図10-11 (ファミリーなし)	12
Y	JP 59-209342 A (株式会社モルテン) 1984. 11. 27 全文, 図1, 4 (ファミリーなし)	13
A	JP 5-68149 U (原 三男) 1993. 09. 10 全文, 全図 (ファミリーなし)	6-7

第I欄 請求の範囲の一部の調査ができないときの意見（第1ページの2の続き）

法第8条第3項（PCT第17条(2)(a)）の規定により、この国際調査報告は次の理由により請求の範囲の一部について作成しなかった。

1. 請求の範囲 8 は、この国際調査機関が調査をすることを要しない対象に係るものである。つまり、
請求の範囲8は、視力回復方法であり、治療による人体の処置方法に該当するので、PCT第17条(2)(a)(i)及びPCT規則39.1(iv)の規定により、この国際調査機関が調査することを要しない対象に係るものである。
2. 請求の範囲 _____ は、有意義な国際調査をすることができる程度まで所定の要件を満たしていない国際出願の部分に係るものである。つまり、
3. 請求の範囲 8 は、従属請求の範囲であってPCT規則6.4(a)の第2文及び第3文の規定に従って記載されていない。

第II欄 発明の単一性が欠如しているときの意見（第1ページの3の続き）

次に述べるようにこの国際出願に二以上の発明があるとこの国際調査機関は認めた。

1. 出願人が必要な追加調査手数料をすべて期間内に納付したので、この国際調査報告は、すべての調査可能な請求の範囲について作成した。
2. 追加調査手数料を要求するまでもなく、すべての調査可能な請求の範囲について調査することができたので、追加調査手数料の納付を求めなかった。
3. 出願人が必要な追加調査手数料を一部のみしか期間内に納付しなかったので、この国際調査報告は、手数料の納付のあった次の請求の範囲のみについて作成した。
4. 出願人が必要な追加調査手数料を期間内に納付しなかったので、この国際調査報告は、請求の範囲の最初に記載されている発明に係る次の請求の範囲について作成した。

追加調査手数料の異議の申立てに関する注意

追加調査手数料の納付と共に出願人から異議申立てがあった。
 追加調査手数料の納付と共に出願人から異議申立てがなかった。